香川県農業試験場研究報告　第 38 号(1986 年 12 月)　45-53

ため池の水質の現状について

田辺和司・片本格・糸瀬貞義

本県は,降水量が少ないことから,農業用水確保のため,ため池が多く,香川用水通水後も,ますます重要な役割を果たしている。そこで,これらため池の水質の現状を把握するため,水質分析を実施し,過去の測定値と比較検討した。

１．pH は,昭和 25 年 6.5,昭和 46 年 7.5,今回昭和 60 年 8.6 と上昇し,7.0 以下は,わずかに 1 件(2%)であった。これは,藻類の光合成による CO_2 の減少に起因するものと判断した。

２．DO は,汚濁の認められるため池の多くで藻類の光 合成による O_2 放出により過飽和状態であったが,数か所のため池においては,水中バクテリアの藻類分解等に伴う O_2 消費により,極端に低い値であった。

３．T-N0.7 ㎎/ℓ 以上,かつ T-P0.03 ㎎/ℓ 以上を富栄養状態のため池とすると,山間部では O%であったが,中間部 67%,平野部 81%と著しく増加し,全体で 46%であった。

４．過去の測定値と比較すると,水質は,近年,ほぼ横ばい状態であるが,平野部から,中間部への汚濁の広がりが認められた。